

秋刀魚の歌

佐藤春夫

作者・佐藤春夫（さとうはるお）は、明治25（1892）年、今の和歌山県新宮市に生まれました。中学の頃から文学に傾倒し、上京後、慶応義塾で文学を学びました。『田園の憂鬱』『都会の憂鬱』などの小説や詩、評論など多くの作品を残しています。昭和39（1964）年に亡くなりました。

秋刀魚の歌

あはれ

秋風よ

情あらば伝へてよ

― 男ありて

今日の夕餉に ひとり

秋刀魚を食ひて

思ひにふける と。

さんま、さんま

そが上うえに青あおき蜜柑みかんの酸すをしたたらせて

さんまを食くらふはその男おとこがふる里さとのならひなり。

そのならひをいあやしみなつかしみて女おんなは

いくたびか青あおき蜜柑みかんをもぎて夕餉ゆうげにむかひけむ。

あはれ、人ひとに捨すてられんとする人妻ひとづまと

妻つまにそむかれたる男おとこと食卓しょくたくにむかへば、

愛あいうすき父ちちを持ちし女おんなの児こは

小ちいさき箸はしをあやつりなやみつつ

父ちちならぬ男おとこにさんまの腸はらをくれむと言いふにんあらずや。

あはれわ

秋風あきかぜよ

汝なんじこそは見みつらめ

世よのつねならぬかの団欒まどいを。

いかに

秋風あきかぜよ

いとせめて

証あかしせよ かの一ひとときの団欒まどいゆめに非あらずと。

あはれ^わ

秋風よ^{あきかぜ}

情あらば伝へてよ、^{こころ ったえ}

夫を失はざりし妻と^{おつと うしなわ つま}

父を失はざりし幼児とに伝へてよ^{ちち うしなわ おさなご ったえ}

—男ありて^{おとこ}

今日の夕餉に ひとり^{きょう ゆうげ}

さんまを食ひて^{くらひ}

涙をながすと。^{なみだ}

さんま、さんま、

さんま^{にが}苦いか塩^{しよつ}つばいか。

そが上^{うえ}に熱^{あつ}き涙^{なみだ}をしたたらせて

さんま^{くらう}を食^ずふはいづこの里^{さと}のならひぞや。^い

あはれ^わ

げにそは問^{とわ}はまほしくをかし。^お

【参考資料】『日本詩人全集 17』（新潮社）

